

(別紙)「第2期夢・未来 たからづか創生総合戦略(改訂案)」に対するパブリック・コメント手続きに基づく意見募集の結果一覧表

・意見の募集期間 令和6年(2024年)11月8日(金)~12月9日(月)  
 ・提出意見件数 22件

※ ご意見ありがとうございます。

No.	項目	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
1	計画全般に関する「た			地域文化のwell-Beingへの活用: 宝塚歌劇団や手塚治虫記念館など、地域文化のwell-being機能を測定し、健康増進効果を明らかにし、推し活によるウェルビーイングの向上と地域への愛着を促進してはいかがでしょうか。	【今後の施策の参考にいたします】 宝塚歌劇団や手塚治虫作品は、創設者や作者の歩みから、宝塚だからこそ誕生した地域文化であると考えています。これら地域文化に近年ブームになっている推し活を取り入れることで、さらなる地域への愛着が促進されようと考えていますので、各方面との調整を進めながら、検討させていただきます。	-
2				芸術による地域再生: 大学等と連携し、芸術活動への参加を促進することで、健康増進、社会参加、地域コミュニティの活性化が可能なことを学術的に示すようなプロジェクトを検討されてはいかがでしょうか？	【今後の施策の参考にいたします】 文化庁をはじめ様々な機関において、社会課題解決に貢献する文化芸術活動の事例研究等が行われており、本市としましても、そのような事例を参考にしながら、多くの市民が文化芸術に親しめる環境づくりを行っていきたくと考えています。	-
3				自然との共生: 社会疫学の分野では、自然的処方トレンドになりつつあります。豊かな自然環境が身近にあり、生活の一部としてかかわることが心身の健康を高めることが明らかになりつつあります。西谷地区の里地里山とのかかわりが人々のウェルビーイングに貢献していることを示すプロジェクトを検討されてはいかがでしょうか？	【今後の施策の参考にいたします】 市街地からのアクセスが比較的容易な西谷地域には里山や農業、宝塚グリア園や長谷牡丹園など、貴重な自然環境を活かした様々な魅力を楽しむことができます。また、里山や自然に触れることを通じて充実感や満足感、癒しの効果もあると考えています。 今後も地域の方と連携しながら、西谷の地域資源を有効活用した魅力ある取組を検討してまいります。	-
4				対話の場の創出: 市民や多様な主体が、宝塚市にとってのソーシャルグッドとは何かを常に対話し続ける場を創出し、地域活動の多面的な価値を再評価してはいかがでしょうか？	【今後の施策の参考にいたします】 本市では市民や多様な主体が定期的に対話を継続する場として、概ね小学校区ごとに20のまちづくり協議会があり、市職員も定期的に会議や行事に出席しています。また、各まちづくり協議会が策定した「地域ごとのまちづくり計画」を市の総合計画に位置づけ、市民と市が対話をしながら取組を進めていく仕組みを構築しています。今後も、地域活動がもつ多面的な価値を評価し、地域活動を支援していきます。 その他、対話の場として、市民と市長がテーマについて話し合う「OPEN! みんなで話そう! やまさき市長とともに」や市内の様々な団体からの要望に対する面談(団体広聴)も実施し、市民の多様な意見をうかがい、市政に活かしているところです。	-
5				【全般に関すること】 「地域」の範囲の整理、特定が必要ではないでしょうか 総合戦略では随所に「地域」の文言が記述されているが、それぞれで「地域」を「行政区の宝塚市」「南部(南部市街地・市街地周辺緑地)と北部」、「生活圏7ブロック」、「20まち協の地域」と読み替える必要があります。施策において「地域」が指す範囲が特定されていないため、読み手により総合戦略の意味するところの捉え方に違いが生じ、参画を呼び掛ける市民の自覚・責任をうまく醸成することが難しいのではないかと思います。地域が市全体を意味する以外は、「宝塚市人口ビジョン」で分析ができて「生活圏7ブロック」を、総合戦略の「地域」と明確にするべきではないでしょうか。 「まち協」は、ブロックごとの地域力向上活動を効率的にするために、便宜上分けられたものと理解します。 尚、ブロックごとに市と協働で施策の推進管理をする窓口の設定は必要だと思います。	【今後の施策の参考にいたします】 ご指摘のとおり、それぞれの「地域」の文言が指す範囲については、若干の差異があるものと認識しています。 それぞれの文言の認知度なども考慮し、本改訂案の修正は行いませんが、今後、施策の実施にあたって、市民の参画、市民との協働を促すために、参画、協働を呼び掛ける対象を明確にすることは重要な観点であると考えています。  まちづくり協議会は、広域化、多様化した地域の課題を地域住民によって解決し、地域の個人や団体などの連携を図り、ともに協力して活動を展開していくことを目的に設立されたものです。 なお、市と協働で各まちづくり協議会の計画を進捗管理する窓口については市民協働推進課が担っています。また、担当部課が進捗の管理を行っている施策もあります。	-
6				「デジタル田園都市国家構想総合戦略」に伴う改定を契機として 「デジタル田園都市国家構想総合戦略」との文言は取り入れられているが、具体的施策、取り組みが少ないのではないのでしょうか。デジタル田園都市国家構想総合戦略の柱の一つである『デジタルを活用した地方の社会課題解決』を具体的に取り組み始める時ではないのでしょうか。  ①消防団体制の充実(施策1-(1)-(2)) デジタル技術を活用した、将来を見据えた担い手・後継者不足の課題解決の検討が必要ではないのでしょうか。デジタル技術で人の作業を代替できることは何か。マンパワーによる体制充実策ではなり手不足など将来的な課題解決につながらないのではないのでしょうか。 なぜ、西谷地区だけに存在する「消防団の体制充実」が、宝塚市全体の総合戦略の主な取り組みとなるのかという疑問は残りますが。	【今後の施策の参考にいたします】 ご指摘の通り、今後、デジタルを活用して地域課題を解決することは重要であり、各分野において具体検討を進める必要があると考えています。  現在、消防本部では西谷地域の社会情勢の変化を見極め、今後の消防団体制の検討を行っています。ご指摘のとおり、将来を見据えた担い手・後継者不足の課題や他の課題を解決するためにも消防団と連携を密にしながらデジタル技術の活用方法を研究してまいります。	-

No.	項目	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
7	計画全般に関すること			② 誰もが移動しやすい公共交通の整備（施策1-(2)-②） 高齢者対策だと思われるが、高齢者の主な外出目的（通院、買い物）について5年後を考えた時、交通ネットワーク見直しやバリアフリー車両の導入だけでは解決できない課題だと思います。 買い物や診療についてデジタル技術の活用実験を始める時ではないでしょうか。例えば、オンライン診療（養父市の例参考）、ネット購入（業者と研究開始）など。	【今後の施策の参考にいたします】 いただいたご意見のとおり、今後、生産年齢人口の減少、高齢化の進行により、行政や地域・事業者の担い手不足が見込まれる中で、デジタル技術の活用は重要な視点であると考えています。公共交通について、オンデマンド交通の実証実験を行うなど、ICTの力も活用しながら、誰もが利用しやすい交通を目指していますが、今後は、誰もが不自由なく日常生活や社会参加ができるよう、交通のみならず多角的なアプローチが必要であると考えています。 今後も引き続き、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことを可能にするための施策を実施・検討してまいります。	
8				③ 医療・福祉分野、教育保育分野においても、デジタル技術により代替しうる作業の検討、実験を開始し、各分野で従事する人の働き方改革の推進を図れないでしょうか。今回のデジタル田園都市国家構想総合戦略を勘案した総合戦略改定には必要なことではないでしょうか。ひいては、教育保育、医療・福祉の質の向上に資する取り組みになると思います。 また、事業構成比阪神間2位、従業員構成比阪神間1位の医療・福祉分野の従事者の働き方改革、ワークライフバランス推進は、市の特性を強化し、宝塚市への人口移入促進につながるのではないのでしょうか。	【今後の施策の参考にいたします】 障害（がい）福祉分野においては、これまで紙での記入・保管が主でしたが、電子による保管も可能となりました。しかし現在でも紙によるやり取りは続いており、支援者にとって負担となっている状況です。ご意見にありますように、DXの推進は働き方を変える可能性があると考えています。どの作業をDX化すれば効果があるか検討し、働きやすい環境整備に努めていきます。 また、教育分野においては、来年度から校務に関することや勤怠管理に関すること等についてのシステムを導入予定です。デジタル化を推進することにより、教職員の業務負担軽減を実現し、働き方改革の推進を図ります。 市内企業等におけるワーク・ライフ・バランスの推進に向けては、啓発資料を窓口に配架するとともに、宝塚市雇用促進連絡協議会会員事業所へ配布しています。今後も、啓発資料の配布に限らず、国・県と連携しワーク・ライフ・バランスをテーマとした講演会の実施を検討するなど、業種に関わらずより多くの人に選ばれる魅力ある事業者が増えるよう、努めていきます。	
9				・取り組みの主旨はわかるのですが、盛んに出て来るデジタル化が具体的に示されていないので、もう少し具体的に新たな活用の在り方がわかればと思います。	【今後の施策の参考にいたします】 デジタル化については、既に、書かない窓口の導入、証明書類のコンビニ交付やオンライン申請の推進、GIGAスクールの推進等を行っています。今後、人口減少が進む中、地域課題の解決にもデジタルの力を活用する必要があります。今後、多岐にわたる地域の課題について、最新のデジタル技術等を勘案しながら、具体取組の検討を進めていきます。	
10				・人口減で担い手不足が叫ばれていますが、自治会、PTAもしかり、老人会、子ども会も消滅しつつあり、役割の見直しスリム化、IT化等が待たれています 先般の選挙時も、立会人が不足とか聞きました。明推協に関わったことがあります。各種団体から選ばれる方は正直高齢者ばかり。これこそ、18歳以上の高校生を含めた若い世代に入ってもらって、選挙に関心を持ってもらい将来の担い手になってもらってはいかがでしょうか。選挙時の立会人になれば、彼らにはちょっとしたアルバイトにもなります。誰が担うかも含めて発想の転換が必要だと思います。	【今後の施策の参考にいたします】 人口減少による担い手不足に伴い、自治会、PTA等の活動にも、今後課題が生じると考えており、負担軽減のあり方を考えることは重要であると考えています。例えば、自治会においては、行政情報の提供、市の事業への協力、付属機関の委員等の候補者推薦協力を任意とするなど、負担軽減を図っています。 現在投票日当日の投票立会人については、各投票区に内在する自治会の自治会長あてに推薦を依頼し、推薦された方に立会人をお願いしています。ご指摘のとおり立会人をお願いする方は高齢の方が多くなっていますが、若い世代の方を推薦して下さる自治会長もおられます。期日前投票の投票管理者と投票立会人については、明るい選挙推進協議会委員等をお願いしていますが、公募立会人として、18歳から39歳までの若年層の市民を対象に公募し、登録させていただき、ご都合の合う日に期日前投票立会人をしていただいております。若者の投票意識向上にもつながると思いますので、同様の方法で投票日当日の投票立会人についてもお願いできるような検討してまいります。	

No.	項目	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
11				・健康のためには年齢を問わず、運動と社会参加が必要と言われます。そのための環境整備はとても大事で「行きやすい所に公園があると散歩や軽い運動が習慣になっていく。行きやすい所に居場所、拠点があれば、社会参加が広がる。」そんなハード面の整備と、外出しづらい（障がい他）方への社会とつながるデジタル化の整備を進めて欲しいです。	【今後の施策の参考にいたします】 令和5年度よりパークマネジメント計画の策定に着手しており、その中でまちづくり協議会の範疇を公園区として定めた、公園区計画の策定を予定しています。今後の公園づくりは公園区を単位とし、主に各まちづくり協議会や地域住民の方々、行政が中心となって既存公園の将来像や利活用、管理運営、再整備など協議の場を設けて計画づくりを行い、実践に向けて取り組めます。 ソフト面については、いただいたご意見のとおり、運動と社会参加が健康に良い影響を与えることは知られており、いきいき百歳体操への取組支援や、ウォーキング事業の推進など、今後も個人の健康づくりを社会全体で支援するための環境の整備・充実に取り組めます。 「障（が）いのある人もない人も共に住みよいまち宝塚」を実現するため、居場所や社会参加の場として、高齢者のサロンに障（が）いのある方が参加するなど、社会参加に向けた取組を行っています。 外出しづらい方については、社会とつながる方策の一つとして、ICTが活用できるかどうかも含めて検討します。	
12	基本目標①	P.5		注釈※健康寿命 …要介護度の要介護2～5を不健康（要介護）な状態とし、それ以外を健康（自立） … 不健康という言葉も不愉快ですが、介護の必要な人は皆不健康となると障（が）いのある方などもイメージされるので、厚労省のHPにあるように日常生活に制限のあるとせめて、記述していただきたいです。	【計画案を修正いたします】 厚生労働科学研究の定義であり、令和6年3月に公表された兵庫県健康づくり推進実施計画（第3次）P9にも同様の表現を使用しているため、この表現となっておりますが、ご意見を受け、表現を修正します。	次のとおり修正します。 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。厚生労働省の「健康寿命の算定プログラム」を使用し、要介護認定区分の自立、要支援1～2、要介護1を「日常生活動作が自立している状態」と規定し算定している。
13	基本目標2	P.6		若い世代が手軽に情報収集できる環境づくりは、市からの発信によってスマホ等で情報を得ている人が増えてきていると思います。このまま、Instagram、Lineでの発信を増やしていくべきだと思います。	【計画案に反映いたします】 引き続き、InstagramやLINEなどSNSを活用した情報発信を行います。	次のとおり修正します。 宝塚市の子ども、子育て、教育等に関する情報や魅力などについて、SNSなど様々な媒体を活用し、市内外に発信することで、若い世代が手軽に情報収集できる環境づくりを推進します。
14	1-(1)-①	P.10		*スポーツ関係団体等への支援 スポーツ21も存在していることは知っていますが、どこで誰が何をしているのかわかりません。市民への周知が必要です。	【今後の施策の参考にいたします】 スポーツクラブ21について、市ホームページに掲載させていただいているところですが、より多くの方に知っていただくためにも新たな周知方法を検討していきます。	
15	1-(1)-②	P.11		*救命講習の実施（P11施策1-(1)-②主な取り組み） 改定前にあった「1万人の受講者」の記述が無くなったため、救命講習受講対象が市民なのか市職員などの関係者なのか分かりにくくなった。	【今後の施策の参考にいたします】 「1万人の受講者」を削除した理由は、コロナ流行期を契機に講習会の内容及び対象年齢層の拡充を図り、講習会の内容等の充実を目標としたためです。また、「救命講習受講対象」については、救命講習は、市民による応急処置率の向上を目指しているため「市民・市職員など関係者」を含めたすべての方が対象となっています。今後も引き続き、市民の救命率向上のため、救命講習を積極的に実施してまいります。	
16	1-(3)-①	P.14		地域で支え合うことは、当たり前のことでこれを仕組みづくりにするのは難しいと思います。コミュニティ、まち協に取り組んでくださいといつも提示されますが、住人の意識の問題であり地域のいきいき百歳体操、高齢者サロンへの参加者はいつも同じメンバーです。 参加されない方の意見を聞いてみると「好きじゃない人がいるから」「決められた時間に行くのが難しい」などのお返事でした。何気ない日常の声かけ、ゴミ捨ての際のあいさつが、コミュニケーションをとるきっかけになり災害時等の声掛け、新聞が溜まっている時の声掛けに繋がっていくと思います。 PTA、自治会への加入者が減ってきている現状を考えると今現在、サロンやいきいき百歳を行っている方々への働きかけが一番ではないかと思います。	【今後の施策の参考にいたします】 サロンやいきいき百歳体操など地域の居場所づくりの立ち上げや継続を支援するとともに、一人ひとりが地域社会とつながり、支え合うことができるよう、そのきっかけとなるような取組を進めてまいります。	
17	1-(3)-①	P.14		*身近な地域で支え合う仕組みづくりの推進【重要取組】 このページの上の表で、市内のサロン等の居場所数が197か所とあり、宝塚市はサロン活動が活発ですが、残念ながら拠点がない地域が多いので、拠点のない、あるいは少ない地域への支援策をお願いします。	【今後の施策の参考にいたします】 引き続き、社会福祉協議会と連携し、地域住民の身近な居場所情報の提供や、新たな居場所づくりを促進していきます。	

No.	項目	ページ	行	市民等からの意見	市民等からの意見の採否及び理由	市民等からの御意見を受けての見直し結果
18	1-(3)-①	P.15		<p>&lt;デジタルデバイドの解消&gt;            初心者向けのスマホ講座の開催は、いいことだと思います。問題はその後で、何回か参加したけれど同じことばかりで面白くない。人によって理解に差があること。自分だけわからないのが恥ずかしい。なにを質問したらいいのかわからない、など色々な声をお聞きました。開催時の人数、復習の場、など考えて促進してもらいたいです。</p>	<p>【今後の施策の参考にいたします】            講習会に参加された方々の理解度や進捗の差については、今後の講習会の内容や運営方法を検討又は改善する際に重要な視点と考えています。</p>	-
19	2-(1)-① 2-(1)-②	P.18		<p>P18施策2-(1)-①とP19施策2-(1)-②のKPI(宝塚市は子育てがしやすいまち)が同じである。            P18のKPI記載は不要ではないでしょうか。</p>	<p>【原案のとおりといたします】            ご指摘のKPIについては、いずれの施策にも関わる指標として設定しているため、原案のとおりといたします。</p>	-
20	2-(1)-①	P.18		<p>(こどもの育てにくさを感じた…割合)は何のアンケートか、出典記載が必要。</p>	<p>【計画案に反映いたします】            出典の記載がなかったため記載いたします。</p>	<p>次とおり修正します。            「こどもの育てにくさを感じたときに、相談先がわかるなど、何らかの対処ができる」と回答した親の割合(4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診での問診調査)</p>
21	2-(3)-②	P.24		<p>&lt;各種スポーツイベント・教室等の実施&gt;            中学校の部活地域移行が、進んでない状態です。            受け入れ先となる教室等を考えて欲しいと思います。できれば運動部だけではなく文化部もお願いします。</p>	<p>【今後の施策の参考にいたします】            運動部は令和8年度の中学校体育連盟総合体育大会後、文化部は各種コンクール、発表会等の後(3年生引退後)から地域移行による地域クラブ活動を開始しすべく準備を行っています。部活動の地域移行を協働により進めるため、社会体育団体や文化芸術団体の代表者、学校長・部活動顧問の代表者、保護者の代表者等で構成する「宝塚市部活動地域移行検討協議会」を設置し、運動部、文化部ともに具体的に検討を進めています。今後も、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p>	-
22	2-(4)-①	P.26		<p>*地域ニーズに合った公園整備の推進【重要取組】            地域の意見を反映した公園整備を行い、とありますが、ここもページの冒頭の表に市民一人当たりの公園面積が5.1㎡とありますが、やはり公園も偏在しており、整備の意見を述べる事が出来るような公園が地域それぞれ1~2km圏内にあれば願います。</p>	<p>【今後の施策の参考にいたします】            令和5年度よりパークマネジメント計画の策定に着手しており、その中でまちづくり協議会の範疇を公園区として定めた、公園区計画の策定を予定しています。今後の公園づくりは公園区を単位とし、主に各まちづくり協議会や地域住民の方々、行政が中心となって既存公園の将来像や利活用、管理運営、再整備など協議の場を設けて計画づくりを行い、実践に向けて取り組みます。</p>	-